

# 高大接続研究

第3集

2010年度版

島根大学入試センター 編

## 高大接続事業の「島根モデル」萌芽期

入試センター長

教育・学生担当副学長 三宅 孝之

一昨年（2009年）6月に、島根県教育委員会教育長あてに「島根大学高大連携事業への取り組みへの協力をお願い」の文書を提出した。この中で、「島根モデル」ともいうべき高大融合の教育システムを構築することによって、島根県全体の教育水準をたかめること、相互協力の事業によってこれに寄与できることを願っている旨を伝えた。

これまで、総合理工学部の数理・情報システム学科が先行して、本学1年次の数学科目（線形代数学等3科目）を高校教員に公開し、また松江東高校における授業公開に本学の教員や院生が参加し、双方の授業につき意見交換を行うなどしてきた。そして、この間に、この高大接続事業は、大学教員と高校教員との間で数学の教科書教材作成として結実しようとしている。さらに、いま、理工系の大学進学希望者の開拓に向け、大学と高校・中学までを射程に入れた連携事業が進もうとしている。

今年の2010年度、6～7月には「島根大学授業参観」が実施され、高校から多数の教員が、大学1年時に担当された「初修」科目を中心に、松江キャンパスの全学部、外国語教育センターの協力により、大学入学者がどのような教育を受け、高大接続の観点から、どのような連続・不連続の問題を抱えているかを考え、検討する機会をもった。

本学と島根県との第6回「連携連絡協議会」（昨年10月開催）の席上、高大接続事業として、理数系教科に特化したSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）事業によって、高校生による総合理工学部、生物資源科学部、医学部の授業受講など理工医系の科学者育成の取り組みが実施されていることが文書紹介され、高大接続事業が確固としたものになっていることが明らかになっている。

今年度の高大接続事業の成果の圧巻は、12月開催の「高大接続フォーラム」であり、同時に展示された、高校生によるポスターセッション（中間発表）であった。それらは、高校生が担当協力の本学教員のアドバイスを得ての成果報告でもあった。大学会館のフロアいっぱいのセッションには、課題を見つけ究（きわ）め、大学の門戸を叩（たた）き、まとめあげた青年の輝く高校生の瞳があった。その一つ、「社会情勢と犯罪の関連性についての考察」は出雲西高校生が法文学部教員の援助（研究室訪問）を受け中間発表に至ったものであった。その説明（プレゼン）を聞きながら、高大連携の学習・教育のあり方と問題意識をもった大学進学者が、目的意識をもって（島根）大学の教室・ゼミ等で学んでいく日が近いものであること、そして、それが高大接続の「島根モデル」という確かものなっていくものだとも思いつつ、熱く胸にこみ上げるものを憶（おぼ）えた。

県下の高校教員、生徒、本学の入試、教育開発両センター、関係教職員、いつもサポーターとして労をいとわない「キャンパスゼミ」の在学学生にも感謝とお礼を申し上げたい。

## 「高大接続研究 第3集」刊行にあたって

本センターの研究と実践の集録として「高大接続研究 第3集」を刊行するのはこびとなりました。

本センターの高大接続の事業の本格的実施から3年を経過しました。本学の先生方はもとより、島根県・鳥取県を中心に多くの高校の先生方のご理解とご協力の中で、本センターが取り組む高大接続事業に継続して取り組み、量的な拡大ばかりでなく、質の面でも大きな成果を得ることのできた1年だったと思います。

「第1章 調査研究」では、高大接続の基本的な問題を考える論考を収録しました。おりしも文部科学省の委託研究「高大接続テスト(仮称)」の調査研究が報告書をまとめ、高校・大学教育関係のさまざまな文献や資料に「高大接続」の文字をみるようになりました。ここで「高大接続」とはどのような問題なのか、どのような視点で問題状況をとらえるべきかなどを考える素材としていただければ幸いです。

「第2章 実践研究」では、昨年度に引き続いて島根県立三刀屋高校及び島根県立江津高校、島根県立安来高校のご協力を得て、大学生が高校に赴き、大学をテーマとした授業をおこなった「授業『大学』」の実践について内容と実施状況、実施結果をまとめました。大学生との協調学習の中で高校生が大学進学に向けた進路意識をどのように変容させていったかをまとめた実践報告です。また今年度試行として取り組んだ「島大キャンパス・アカデミー」の実施状況についてもまとめています。公募に応募した19件の高校生が大学教員の助言や高校の先生の指導の中で探究論文を書き上げる取り組みの実施概要をお読みいただきたいと思います。

「第3章 高大接続フォーラム」では、研究報告「高大連携事業の教育的効果—松江東高校S Sクラス卒業生の意識調査から—」をはじめ、高大接続テストや本学理系学部入学者の入学後の追跡調査、TOEICを活用した教育活動の調査などから、大学から見た「学力接続」の課題を考えました。

本集録に掲載した研究と実践は、いずれも高校と大学双方の教員の協働によってなりたっているものです。これが「高大接続」の本質ではないかと思えます。大学教員の力だけで入学後の学生の力をしっかりと伸ばすことはできません。高校の教員の力だけで大学進学を見通した実りある進学指導をおこなうこともできません。校種、教育段階を越えて、高校生、大学生の“学び”の世界を高く、深く、広く、強くしていくことに、本集録が寄与することを念じています。多くの関係者の皆様方からのご意見やご感想をいただけますと幸いです。

2011年3月

島根大学入試センター副センター長 田中 均

## 目 次

高大接続事業の「島根モデル」萌芽期

島根大学教育・学生担当副学長 三宅孝之

「高大接続研究 第3集」刊行にあたって

島根大学入試センター副センター長 田中 均

### 第1章 調査研究

「高大接続への視点 ―「教育の接続」から「学習の接続」へ―」・・・・・・・・・・ 2

島根大学入試センター副センター長 田中 均

### 第2章 実践研究

授業「大学」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

島大キャンパス・アカデミー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

第3章 高大接続フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

あとがき